

リニューアルキャンペーン特集事例（エマネージ）



理事 工事課長 美納 智次様

最新機器の導入で自らデータ収集。 組合員の省エネ提案をサポート

埼玉県電気工事工業組合様は、昭和25年に電気工事業者の結束を図るため設立されました。現在の組合員数は1,100名を超え、国内でも最大規模。指導・教育事業を通じ、業界の安定化・近代化に尽力されています。また、ISO9001、14001、27001の認証を受け、環境活動にも熱心です。今回、全国の組合に先駆け、本部会館である埼玉電気会館にエマネージを導入されました。

導入のきっかけはパナソニックから全日本電気工業組合連合会様への提案でした。「当組合の会館には技術員が常駐しており、最新の電気設備を導入して自ら保守し、データ収集しています。既に太陽光発電設備や氷蓄熱空調設備、電気自動車および充

全国の電気工事業工業組合に先駆け、エマネージを導入された埼玉県電気工事工業組合様。本部会館の省エネ化を図ると同時にショールーム化することで、組合員様へのエマネージ啓発とビジネスチャンスの拡大に取り組んでおられます。

電設備を設置していましたので、さいたま市のハイパーエネルギーステーション事業でパナソニックの蓄電設備を設置して運用開始すればさらなるピークカットの効果があると考えていました。これらを連携すれば、災害対策の拠点としての活躍も期待されます。蓄電設備の運転計画にはBEMSのデータが不可欠と考え、エマネージ導入を決めました。こうおっしゃるのは、エネルギー管理士の資格をお持ちの美納様です。

予想に頼っていた運用計画がエマネージにより短期間で問題が見える化

まだ設置されたばかりで現在はデータ収集の段階ですが、ピークカットはもちろん、ピークにこだわらない無駄な電力消費の抽出と対策にも取り組み、氷蓄熱空調設備と近く運用開始する蓄電設備の運転計画の検証に役立てたいとお考えです。「回路ごとの電

力使用状況がモニターに表示されるので、どの電源を切ればよいか判断しやすい。少しずつでもわかったことから試して電力削減に取り組める」とおっしゃいます。

「今まで全体のデマンドと機器の定格から想定していたのが、深夜の電灯回路や氷蓄熱のピークの重なりが見えてきた」と早くも問題が見える化しました。

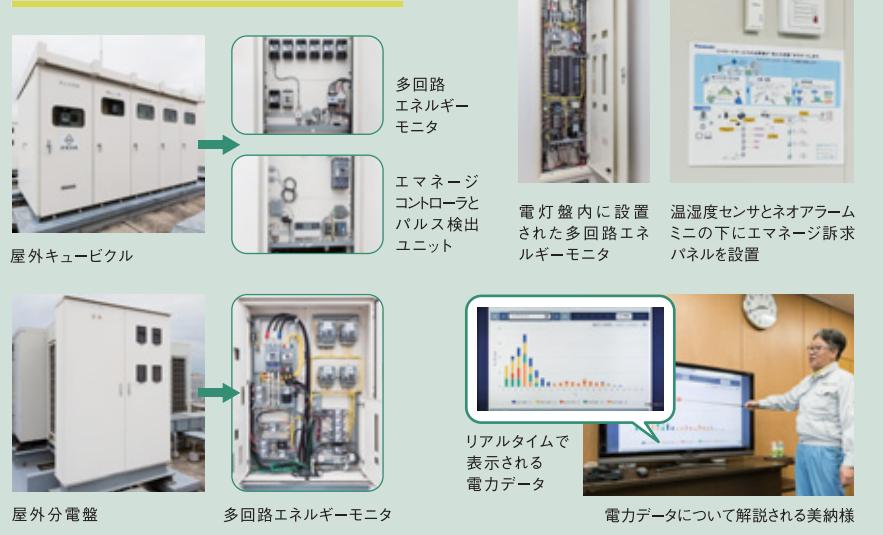
これにより、契約電力を56kWから51kWに、年間電力使用量を142MW hから135MW hに削減することを目指とされています。

こうした省エネを図ると同時に、会館をショー

ルーム的にご活用。技術研究開発委員会主導の下、組合員様向けのスキルアップ研修会の開催などで運用改善提案のサポートも行われます。

こうした取り組みを通じて、組合員様の知見充実とビジネスチャンスの拡大により業界が盛り上がる事を期待。「組合員がお客様の設備更新時に適切なアドバイスができるようになり、信頼を得ることで、お客様との長いおつきあいになることにつながるのでは」と、今後の展望に期待を寄せておられます。

エマネージ計測機器設置状況



会館内に設けられた各種電気設備



工事会社様



株式会社ハススマ電気
代表取締役
佐藤 隆行様

POINT PCでいつでもデータ閲覧が可能だから お客様への資料作成やメンテナンスに役立ちます

当組合では技術研究開発委員会の委員長を務めています。これまでパナソニックの見える化製品や他社のBEMSの設置工事の経験は多数あり、今回初めてパナソニックのエマネージの設置工事をさせていただきました。

会館には既に照明制御システムとしてパナソニックのフル2線式リモコンが採用されていましたので、分電盤内の空スペース内でスマートなおさまりになりました。

会館にエマネージが設置されたことで、パソコン等でいつでもデータを閲覧できますし、プリントアウトもできるので、お客様への資料作成や説明に役立てたいと思っています。また、設定の変更事項や動作確認の履歴も閲覧できるため、メンテナンス等にも役立つと思います。

今後はリニューアル需要の獲得に向けてさらに積極的に取り組み、全国各地において展開していくと考えております。